非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

第１６号

〒113-0001 東京都文京区白山１－31－９ 小林ビル３階

Tel:080-5520-3077 E-mail:npj@peace.biglobe.ne.jp

Fax:03-5684-5870 Website:http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/ 2006年12月8日発行

巻頭言

政治的に立場をとらないこと

ＮＰＪ理事 小林 善樹

非暴力平和隊・日本（ＮＰＪ）の活動について、考えていることを述べます。これはあくまでも私の個人的見解です。ＮＰＪのあり方についての議論の呼び水になれば、と問題提起したいと思います。会員の中にいろいろなご意見があろうかと思いますので、会報への投稿やメィリング・リストなどで議論が交わされることを期待しています。

＊

標題の「政治的に立場をとらないこと」は、ＮＰＪとして、ＮＰの基本的な立場である Nonpartisanship の訳語として用いている言葉です。Nonpartisanship の訳語として辞書には、「党派に属しないこと、無所属、超党派」という訳語が載っており、一般的には「中立」という認識があるようですが、先日のディヴィッド・グラントのワークショップで、ディヴィッドは「中立 Neutral」とは、「見て見ぬふりをする」「無関心」「関与したくない」というような消極的なニュアンスがあり、Nonpartisanship は違うんだ、ＮＰは積極的に関わっていくんだ、と説明していました。（ランダムハウス英語辞典を見ると「Neutral」にはそのようなニュアンスは感じられないのですが、ネイティヴにはそのように理解されているのでしょうかね。）

＊

ＮＰの基本原理は、紛争の平和的解決を目指して、紛争地において、地元の人々が平和的解決をはかれる場を作ることができるように、「非暴力的な手段により」「Nonpartisanship の立場を堅持した」「第三者介入をおこなう」という三本柱で成り立っていると言えるでしょう。ですから、その活動は、あくまでも当事者ではない「第三者」としての活動であって、Nonpartisanship でなければならないのですから、当事者のいずれにも与しない、支

巻頭言 政治的に立場をとらないこと 小林善樹・・・・・・・・・・・・・・・1
第３回「希望のための非暴力セミナー」での感想 中原隆伸・・・・・・・・・・・・3
ソウル―非暴力平和隊・韓日交流報告 岡本三夫・・・・・・・・・・・・・・・・・4
冬季カンパのお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
寄付へのお礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
ご寄付をいただいた故田中恵美子さんのこと 青木護・・・・・・・・・・・・8
12月理事会の概要報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
事務局だより、ほか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

援しない、という立場でおこなわなければならないのだろう、つまりＮＰとは、非暴力主義にもとづく平和活動の中の一分野として、外国において「Nonpartisanship の立場を堅持した第三者としての外国人による紛争介入の活動」をおこなう団体なのだ、と言えるでしょう。

ＮＰＪは、規約第３条(目的)で「本会は、非暴力的方法により紛争地域の平和構築を支援する国際ＮＧＯである非暴力平和隊(ＮＰ)の日本グループとして活動し、隊員の募集及び訓練を行うとともに、非暴力の思想及び運動を普及し、もって人権の擁護及び平和の推進に寄与すること」と定めてあるように、国際的なＮＰを支援するための活動とそのための普及活動をする団体なのだ、と理解しています。規約を読むかぎり、日本国内で平和的活動をおこなうことは想定されていない、と考えられます。

＊

ここで寄り道をして、私の平和活動についての自己紹介をさせていただきます。私は、学生時代にのめり込んだ「うたごえ運動」のなかで平和運動にもかかわり、就職後もしばらくは関わり続け、60 年安保の時には、東京に出張していたので、国会前のデモにも飛び入り参加していたが、次第に会社人間になってしまい、いつしか与党側に与するようになってしまっていた。

平和運動に「帰り新参」したきっかけになったのは、退職後に始まった 1991 年の湾岸戦争だった。小学校６年生まで戦争の時代を過ごし、戦中・戦後の辛い「飢え」の体験を持つ私は、なんとか戦争のない世界をめざしたいものだと考えて、東京の小さな土建会社の社長がやっていた「平和憲法(前文・九条)を世界に拡げる会」に入会し、「9 条の会・アメリカ」を立ち上げたチャールズ・オウバービィ博士の大阪講演をきっかけに「憲法９条の会・関西」の創設に関わり、世話人や会員を 12 年あまり続けて来ています。さらに、この 1、2 年は地元で設立されているいくつかの「9 条の会」にも関わるようになっていますが、この活動は、改憲の動きを強めている政府・与党側に対して、「平和憲法」を堅持するよう求める政治的な運動であると理解しています。そしてこのような活動はＮＰＪにはなじまないと考えています。

もう一つ私の拠り所にしている信条は、「憲法９条の会・関西」の学習会をきっかけに知った「ＷＲＩ(戦争反対者インターナショナル)」(1921 年発足)の宣言です。それは『戦争とは、人類に対する犯罪である、と判断しますので、私は、いかなる戦争にも反対し、戦争を引き起こすようなあらゆる原因を取り除くために努めることを決意しました』(訳文責小林)(ＷＲＩについては阿木幸男さん著の「非暴力 For Beginners」46 頁参照) という宣言です。

＊

私が、ＮＰに関わり始めたのは、沖縄問題の ML を通して知った 2001 年６月の東京での集会に参加してからだったが、この運動こそ、憲法前文に謳われている『われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたい』という誓いを「武力を使わずに、平和的に」具現化する運動であり、ＷＲＩ宣言に合致する道だ、と考え、私としてできるだけのことをやろうとして来た。

＊

一般的に考えて、私たち日本の国民(「国民」という言葉には、日本国籍を持つ者、という含意があるので、抵抗を感じているのですが、「日本に住む一般民衆」という意味で使います) が国内で平和の問題に関わる時には、だいたいにおいて国家機構 vs. 国民という対峙の場に直面することになるでしょうから、Nonpartisanship ではなく、政治的な立場をとることとなりましょう。私たちは、国民という一方の側の当事者であって、「第三者」にはなり得ないのでしょうから。たとえば、最近の例で、沖縄の那覇における平良夏目牧師の不当逮捕に対する釈放要請もそうでしたし、イラクへの派兵反対

行動もそうでした。Nonpartisanship な第三者としての活動は、自国内ではあり得ないのだろうと私は考えています。

このような考えから、NPJ としては反政府的な活動はやるべきではない、やれないと考えています。それは別な団体でなされるべきでしょう。

ＮＰＪの会員の方々は、それぞれのご意見をお持ちでしょうし、それぞれにいろいろなグループに属されて平和活動をされているでしょうから、それぞれの情報を多くの人に伝えたいという思いをお持ちでしょう。その伝達ルートとしてＮＰＪのメィリング・リストが使われることには異論はないのですが、ＮＰＪのあり方や非暴力思想についての意見交換とか、情報交換のような発信が少ないことにいささか物足りない想いを抱いています。

第３回「希望のための非暴力セミナー」での感想

ＮＰＪ会員　中原隆伸

９月 30 日、東京の文京シビックセンターにおいて、３回目となる「希望のための非暴力セミナー」が開催され、およそ 20 人の方に参加して頂きました。今から、そこで話した内容の簡単な要約、及び全体の感想を話題提供者としてお話しさせて頂いた私の方からご報告させて頂きます。

内容は時間を前半と後半に分けて、前半はまず非暴力平和隊（NP）と、発表全体を通して重要なテーマであった Protective Accompaniment（護衛的同行）について参加者の方に説明した後、（１）イギリスのブラッドフォード大学はどういった授業内容だったのか、（２）自分が参加した Peace Brigades International（PBI：国際平和旅団）の紹介を行い、最後に「非暴力は時に（例えばルワンダ内戦や第二次世界大戦中のヨーロッパのような）暴力を止めるために有効とは言い切れない局面もあるが、それ以外の多くの場面で有効であるし、また戦争の起こった原因を解決するためにはどうしても必要不可欠な手法である」という感想を述べました。

質疑応答と休憩を挟んで、後半では主に今年６月と７月のパレスチナ・イスラエルでの自分の体験について話しました。自らの修士論文で研究した「Peace Now」という団体の紹介を含め、イスラエル国内の圧倒的多数がレバノンへの侵攻を支持していて、対話を通じての解決やイスラエルの平和団体が今冷ややかな目で見られているといった事についてお話しました。また、NPJ のメーリングリストでも何度か流させて頂いたのですが自分も参加していたビリンという村で毎週行われているデモンストレーションの紹介を、写真（写りは悪いですが）を使いながらしました。

感想としては、２時間半という時間の中でイギリスとパレスチナ・イスラエル、両方をカバーしたため少し説明も中途半端なものになり、参加者の興味をそそられる様な所まで行かなかったのかな、と少し心配になっています。あと、これは友達に言われたことなのですが会費 800 円は少し高いような気もしました。翌日に行われたピースボートの報告会は、レバノン人とパレスチナ人の報告者二人で無料だったりして、なんだか自分の話で 800 円ももらっていいのかな…と少し考えさせられました。

最後に、当日ご来場頂きました皆様、また広報面でご協力頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。特に青山さん、大畑さん、あとピースネットのアベガワさん、本当にありがとうございました。

ソウル―非暴力平和隊・韓日交流報告

NPJ 理事　岡本三夫

去る１１月２４日～２５日の２日間、韓国のソウル市を中心にして、非暴力平和隊・韓国（ＮＰＣ）と非暴力平和隊・日本（ＮＰＪ）の会員どうしによる相互学習と交流・親睦の歴史的イベントがあった。日本からは君島東彦共同代表を含む８人の参加者があり、韓日間では初顔合わせの人びとが大半だったが、まさに「朋有リ遠方ヨリ来ル」の友好的な雰囲気の中で受け入れてもらうことができ、一同、大いなる満足に充たされて帰国することができた。

航空便の都合や個人的な訪韓理由もあって、日本側代表のソウル滞在にはバラつきがあり、滞在期間も２泊３日～４泊５日とまちまちだったが、２４日（金）午後６時には全員が定刻に集合し、スタートの歓迎夕食会と NPC/NPJ 親善交流があった。通訳はソウル大学２年生の２人・米田睦美さんと彼女の友人の趙アラさん。米田さんは奥本京子理事の教え子で、２人ともよどみない通訳振りを発揮。会は順調に進行した。

ひと通りの歓迎の辞、相互の自己紹介に引き続いて、パワーポイントによる「ＮＰＣの活動と展望」がパク・スンヨン共同代表によってプレゼンされ、私の「日本における平和運動」、パワーポイントによる大橋理事の「スリランカでのＮＰ活動」、君島共同代表の「ＮＰＪの活動と展望」があり、ひきつづき、発表についての質疑応答があった。「スリランカでの NP 活動」は大島みどり理事の現地体験報告となるはずだったが、大島さんの訪韓不可のため大橋理事の出番となった。

ＮＰＣの活動が韓国内のさまざまな平和運動に直結してなされてきているのに比べ、ＮＰＪの場合はスリランカにメンバーを派遣するなど、国際的な活動をしていることが対照的なポイントとして浮上したが、韓国がいまなお分断国家であることの特異性と異常性が深く関係しており、最近の北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）による核実験なども絡んでいて、私たちは韓国の同志たちの置かれている厳しい現実に直面することとなった。

君島報告ではそのような現実の分析が日本国憲法第９条との関連で展開され、すぐれた報告となった。朝鮮戦争以来の朝鮮半島における冷戦状態はいわば日本の平和の代償として発生・継続したものであり、日本もまた「当事者的」責任があることが浮き彫りになった。しかし、当時、朝鮮半島が米ソ冷戦の最前線だったという認識を持っていた日本人は少なく、まして日本が「当事者的」責任を持っているなどとは夢想だにしなかったに相違ない。

この日の圧巻というか、驚きというか、受け止め方は様々だろうが、パク・サンジュン共同代表の令夫人が韓明淑（ハン・ミョンスク）という政治家で、「国務総理」の地位にあるため、国務総理公邸の一室に招かれ、韓国の政治中枢に近い場所で夜遅くまで何本ものワインを空にして大いに語り合ったことだ。朴正熙（パ

クチョンヒ）大統領時代には２人とも反政府活動の廉で囚われの身となり、パク代表は１３年半も獄中にあったというから、韓国政治の激しい変化に驚く。

２５日（土）は早朝から「ピース・ツア」のプログラムが組まれていて、２台の車に分乗して、まず史跡・西大門刑務所歴史館を訪問し、次にいわゆる「非武装地帯」を視察した。西大門刑務所では１９１０年の日韓併合にいたる韓日関係、日帝時代（１９１０～４５年）におきた民族の抵抗運動に伴う弾圧や拷問の状況を示すジオラマ、蝋人形、写真、文書等が展示されており、深い懺悔の念を持つことなしには直視できなかった。

刑務所での日本語による案内はボランティアの男性が担当してくれ、日韓併合以前にあった日本政府の干渉や陰謀の数々は、聞くだに耐えがたいものだった。帰国してから、山辺健太郎著『日韓併合小史』も拾い読みしたが、往時の日本帝国が彼ら彼女らに対して行った支配はどのようにしても弁護することはできないことを痛感した。

非武装地帯の訪問は、まず、「北朝鮮が一望できる場所」として知られる「烏頭山統一展望台」という海抜１１８ｍにある高地に登り、北朝鮮の現状紹介ビデオを見たり、望遠鏡で北朝鮮側を眺めたりした。「烏頭山」は「オードゥサン」と読む。北朝鮮の人びとの暮らしの紹介に熱心な様子や北朝鮮の物品が展示・販売されていることのうちに、冷戦時代とは異なる南北統一への意欲が感じられた。

ここはまた、あの「イムジン河、水清く、滔々と流る～」と哀しくも美しいメロディーで始まる統一願望の歌にあるイムジン河の河畔にも近く、昼食は河畔のレストランに座をとって美味しい韓国料理に舌鼓を打った。前日は韓国側の招待だったので、国際親善友好の儀礼として、この日の昼食と夕食は日本側が招待するという形をとった。もちろん、韓国側は車を２台用意してくれ、運転も案内も一手に引き受けてくれているわけだから、それくらいのお返しではすまないのは当然で、「借り」ができたことは覚えておかなければなるまい。

次に訪問した非武装地帯の公園は１９５２年の朝鮮戦争停戦協定で韓国側だけでも１万数千人の捕虜が相互交換条件で韓国に渡った橋のある場所で、南北双方の兵士がにらみ合っている最前線地帯だった。ＮＰＣが準備してくれた緑色の布地に、めいめいが英語と漢字で平和的統一を願うという意味の文言を書き、それらを橋の上に掛かっている網状の壁に巻き付け、私たちの願いを表明した。

また、監視兵がいぶかしげな目線を投げかけてくる中で、地面に数本のろうそくを立て、これに火を灯し、輪になって“We Shall Overcome”を５番まで歌い、南北両朝鮮の平和と友好を祈り、両国の統一と世界平和実現の日到来の早からんことを願った。ろうそくを灯すという行為によって、何か厳粛で神秘的な雰囲気が醸し出され、私たちの願望に「印鑑証明の付箋」をつけたような感じのするセレモニーだった。

夕方の交流会は大韓民国憲法裁判所裏のレストランで開かれ、今回のイベントについての反省・感想の言葉が交換され、またＮＰＣ／ＮＰＪの今後について、ひいては東アジアにおけるＮＰについての活発な討論も交わされた。特に来年度に関しては君島東彦ＮＰＪ共同代表が「９月にケニアで開催されるＮＰ国際会議前に、日韓を中心にしたアジア地域ＮＰ会議を開催しては」という提案をしたが、ＮＰＣはことのほか慎重で、合意には到らなかった。

しかし、ＮＰＣとＮＰＪが０７年にも類似のイベントを日本で開催することでは意見が一致した。開催時期についてはこれから調整する予定だ。また、ソウル市を流れるハンガン（漢江）という大河

の上で０７年７月２６日（前夜祭）と２７日に催される「ピースボート」イベントには日本からＮＰＪのメンバーが代表参加する方向で合意された。ＮＰＪメンバーの宿も、ホテルありゲストハウスありでまちまちだったが、その大半が泊まったのは奥本理事が紹介してくれた彼女の定宿「安国ゲストハウス」で、そこは廉価と快適さで抜群だった。

～＊～＊～＊～＊～冬季カンパのお願い～＊～＊～＊～＊～

ＮＰＪ会員各位

日ごろからＮＰＪの活動に積極的にご参画下さり、お礼申し上げます。

活動の基礎となるＮＰＪ財政充実のため、会員増を基礎とする会費収入の増加に引き続き努めるとともに、昨年同様、資金カンパを行うことを１２月３日の理事会（京都）で決めました。会費に上乗せするかたちのお願いは、こころ苦しいことですが、現状をしのぐにはそれ以外に方法がありません。

これでとにかくも足元を固めた上、先のソウルでの「日韓交流」を来年日本で開催する予定の次期交流会議につなげ、日韓が中心となって NP 活動にアジア地域のイニシアチブを発揮するための具体的活動に入っていきたいと考えています。

ご協力いただく額の目処を、正会員の方は一口５０００円（理事は原則２口以上)、賛助会員及び学生正会員の方は一口１０００円といたします。これを結集したこの冬のカンパ、１００万円を目指しましょう。

ボーナス期です。ボーナスに縁のない方も含めて、ことしを乗り切るためのカンパ、１２月２９日（金曜日）を一応の期限としてお送りいただくよう、お願いいたします。

郵便振込みの用紙を、会報と併せてお送りいたします。銀行振り込みをして下さる方は、

【三井住友銀行白山支店　普通　６６２２６５１　口座名義・NPJ 代表　大畑豊＝エヌピージェイ　ダイヒョウ　オオハタ　ユタカ】

宛てお願いいたします。

共同代表　君島東彦
　同　　大畑　豊
事務局長　安藤　博

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～～＊～＊～＊～＊～＊～

連載「日本のお気に入りの植民地･沖縄より」は、今号はお休みいたします。（編集部）

＝＝＝寄付へのお礼＝＝＝

非暴力平和隊・日本は、2006 年 7 月に、2005 年 12 月 11 日にご逝去された田中恵美子さんから、2000 万円の遺贈を受けました。NPJ理事の弁護士の青木護さんが、永年のクライアントであった田中さんに、遺贈先の1つとしてNPJを推薦されていたためです。

いただいた 2000 万円のうち、まず 500 万円を 9 月末にNPのコロンボオフィスに送金し、NPスリランカ・プロジェクトの財政支援に役立てました。この財政支援については、NPスリランカ・プロジェクト・ディレクターのマルセル・スミッツから感謝の連絡を受けています。

12 月 3 日の理事会で、さらに 500 万円を NPJ の国内活動、NPスリランカ・プロジェクト等に支出することを決定しました。田中恵美子さんからいただいた 2000 万円は、武力によらずに平和をつくる活動に有効に活かされています。

多額のご寄付をいただきました故・田中恵美子さんに、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

非暴力平和隊・日本
共同代表　大畑　豊　　君島東彦
事務局長　安藤　博

ご寄付をいただいた故田中恵美子さんのこと

NPJ理事・青木　護

遺言によりNPJに多額の寄付をいただいた故田中恵美子さんは，1929年（昭和4年）11月7日生まれで，2005年12月11日，76歳で逝去されました。

私が最初にお会いしたのは約20年前で，2度にわたり裁判事件などの解決にあたり，その他何度か法律相談を受け，私に対し信頼をよせてくださっていました。

2005年夏にガンの肝臓転移がわかり，遺言による寄付について相談を受けました。田中恵美子さんは一人暮らしで，相続人である甥姪の方や親戚の方に一部を贈与することは決めていましたが，財産の多くを世の中の役に立つことに寄付したいとのご意向でした。相談の結果，遺産のほとんどはユニセフに，一部を聴覚障害者団体（社会福祉法人）とNPJに寄付していただくことになりました。聴覚障害者団体は，私がしばしば一緒に仕事をしている聴覚障害者の弁護士の紹介によるものです。NPJについては，ホームページをご覧いただき，7人のノーベル平和賞受賞者も賛同していることなど，その活動をご理解いただき，ご支援賜ることになりました。

私自身も多額のご寄付をいただいた責任の重さを痛感しています。NP及びNPJが平和構築のための重要な役割を果たすことが田中恵美子さんのご遺志に応える道だと思います。そのために私も努力したいと思います。

12月理事会の概要報告

12月3日、立命館大学末川記念会館において、12月理事会が開催されましたので、その概要を報告します。理事総数17名中、5名出席、委任状出席9名で理事会成立、欠席は3名（報告者：書記 大畑豊）。

（1）13：00～ミニ講座

演題：「NGOによるスリランカ紛争解決の試みと課題」

講師：岡田和男さん（立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程後期）

（2）15：00～討　議

①年末ボーナス・カンパ

例年通り行なう。担当：安藤

②12月発刊会報編集方針・印刷発送作業

すでに提案されているものに、遺贈金お礼、理事会報告も載せる。

印刷・発行：12月8日

③ＮＰＪリーフレット作成状況（君島）

デザイナーの加来健一さんに依頼した。加来さんは国際法律家協会、反核法律家協会等のリーフレットなどを作成、「地球の子ども新聞」の編集も担当している。加来さんは東京在住のため、今後は安藤・大畑を中心に進めていく。来年3月総会までに完成・お披露目予定（1万部）。

④ＮＰＪ３月総会・理事会の開催地など

３月18日（日）午後か25日（日）午後。東京。理事のアンケートをとり、参加予定者の多い方の日程にする。

⑤市民意見広告運動（※）からの賛同依頼について

賛同し、賛同金１口（4000円）を出す。Nonpartisanship「政治的に立場をとらないこと」、非暴力・平和（運動）の推進、紛争地と日本国内での活動の質の差等々が議論されたが、最終的には全員一致で上記のように決まった。

※ 反戦市民グループ「市民意見広告運動」（http://www.ikenkoukoku.jp/）が呼びかけている来年５月３日の憲法記念日の「非武装・不戦の憲法を変えることに反対しイラク・インド洋からの即時撤兵を求める意見広告」（編集部注）

⑥日韓交流会議報告、並びに今後の交流発展の方向

とてもいい交流が図れた。これを発展させ、来年には NPJ＋NP 韓国＋αとし、NP 東アジアの形になるように日本で８月上旬に開催したい。フィリピン・ミンダナオからや、スミッツ（NP/SL）、グラント（NP）らにも参加を呼びかけたい。

⑦遺贈金の使途について

２千万円の遺贈金のうち、すでにスリランカ・プロジェクトに 500 万円送金し、残金は1500万円であるが、そのうち500万円に関して以下のように決定する。

－スリランカ・プロジェクトへ200万円送金

－NP総会資金として100万円送金

－「東アジア会議」開催費用並びに、その準備を主目的とした事務局強化のため200万円

⑧その他

NP韓国の開催する「ピースボート」（来年７月 27 日、停戦ラインにあるハン川に船を出し、北と南をつなぐ運動）への奥本・大畑・小林の派遣

会員募集

■非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援してくださる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申し込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊･日本ウェブサイトの「入会申し込みフォーム」**をご利用下さいますようお願いいたします。

❂正会員（議決権あり）
- 一般個人：１万円
- 学生個人：３千円
- ＊ 団体は正会員にはなれません。

❂賛助会員（議決権なし）
- 一般個人：５千円（１口）
- 学生個人：２千円（１口）
- 団体　：１万円（１口）

■ **郵便振替：00110 - 0 - 462182　加入者名：NPJ**
＊通信欄に会員の種類を(賛助会員の場合は口数も)ご明記ください。　例：賛助個人１口

■ **銀行振込：三井住友銀行 白山支店　普通 6622651　口座名義：NPJ 代表 大畑豊**
＊銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話･ファックス･メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ 事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ **ウェブサイトからのお申し込み：http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/nyukai.html**

ご案内:

『平和･人権･ＮＧＯ すべての人が安心して生きるために』（新評論、2004 年）

君島共同代表が「平和をつくる主体としてのＮＧＯ」という章で、ＮＰのことを詳しく紹介しています。この章の抜き刷りを販売しております。ぜひＮＰの紹介にご活用ください。Ａ５版・表紙カラー・一部３００円（送料別）、ご注文は事務局まで。

「ふくしま非暴力平和隊ネット」で試作した缶バッジ

非暴力平和隊を宣伝し、資金を集めるために、ＮＰＪ福島在住メンバーで作った缶バッジの普及にご協力ください。ＮＰの鳩のデザインをあしらった、かわいく、洒落たバッジです。価格は１個２００円で、１０個以上のご購入の場合は１個１００円です。
【９０円切手を貼った返信用封筒】と【代金の小為替】を同封して次までお送りください。〒９７１－８１７１　いわき市泉が丘２－３－４　鞍田　東

▲◈◉◍◙▣▤　事務局便り　▤▣◙◍◉◈▲

🕊今号の発行も遅れましたことお詫びいたします。🕊教育基本法改定(参院審議中)がこのまま成立すると次は改憲です。日本の民主主義・平和主義の真の正念場です。（中里見 博）

非暴力平和隊(NP,Nonviolent Peaceforce)とは……

地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際 NGO で、非暴力平和隊･日本(NPJ)はその日本グループです。
これまで世界中の平和活動家たちが小規模な非暴力的介入について経験を積み、功を収めて来ました。NPはこれを大規模に発展させるために2002 年に創設されました。非暴力･非武装による紛争解決が「夢想主義」でも「理想主義」でもなく、いちばん「現実的」であることを実践で示していきます。
NPは、地元の非暴力運動体･平和組織と協力し、紛争地に国際的なチームを派遣、護衛的同行や国際的プレゼンス等によって、地元活動家等に対する脅迫、妨害等を軽減させ、地域紛争が非暴力的に地元の人によって解決できるよう、環境づくりをすることを目的としています。
NPは 2003 年9月からスリランカでの活動を開始し、現在16カ国から25人のメンバーを派遣し活動しています。